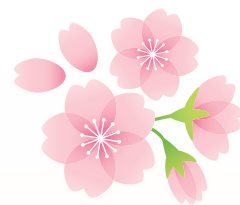


いばらき人。



たわら たつや
俵 竜也さん

株式会社ニチイ学館
 ニチイケアセンターひたちなか
 訪問入浴オペレーター



ニチイケアセンターひたちなかは、全国に1,900か所の介護事業所を運営し、約50年にわたって教育事業を行なっているニチイ学館の事業所の一つです。俵竜也さんは、3年前に同施設で介護職員初任者研修を受講しました。介護の仕事の入門資格といわれる研修で、食事や更衣、入浴介助など、高齢者や障がい者をサポートするための専門的な知識とスキルを身につけます。俵さんが介護職員初任者研修を受講したきっかけは、「祖母が生前、訪問介護や訪問入浴を利用して、対応してくれたスタッフの皆さんがとても優しく、そして楽しそうに介護をしている姿を見て介護の仕事に興味を持ち始めました。しかし、介護の仕事が自分にできるか不安があり、気持ちはあるものの自営で塗装業を営んでいました。転職することを家族に相談したところ、福祉の仕事に就くことを賛成

してくれて、初任者研修を受講しました」と振り返ります。介護職員初任者研修を受講中に、ニチイケアセンターで働くことが決まり、福祉の仕事の第一歩がスタートしました。

地域の高齢者などを入浴で支援する仕事

俵さんの仕事は、在宅で生活する高齢者や障がい者の自宅を訪問して入浴介助を行う訪問入浴のオペレーターです。介護職員と看護職員と3人1組で利用者宅を訪問しサービスを提供します。担当するのは、車の運転、浴槽の組み立て、スタッフのサポートです。入浴車に積んであるボイラーに、家庭の水道からホースを繋いでお湯を沸かし

周りの人たちの笑顔を見られる時が、 自分が輝く瞬間



で浴槽に送ります。お湯の温度は利用者に合わせて調整し、入浴後は家庭の浴室に排水します。「訪問して会った瞬間に、『よく来てくれた』と言ってくれる利用者さんがいて、そういう時は来てよかったなと実感します。笑顔で迎えてくれる人に出会うとやる気が出てきます」と話します。

「よかった」という言葉がありがたい

訪問入浴により、本人はもちろん家族も喜んでくれることが嬉しいと言う俵さん。「よかったと言ってもらえる、その言葉がありがたいです。退院して自宅に戻りずっと入浴できなかったという方もいて、『久々のお風呂ですっきりした』と言われると本当に嬉しいです。当たり前のように入浴していたことができなくなってしまった方にとって、訪問入浴でそれが可能になることは素晴らしいことだと思います」と話してくれました。家族では難しい、プロだからこそできる利用者へ負担をかけずに快適に入浴してもらう仕事に、誇りを持って取り組んでいます。



福祉の現場はイメージと違い明るく元気

福祉の仕事にやりがいを感じている俵さんですが、この仕事に就く前の福祉の仕事のイメージは、「福祉の仕事はきついと言われるので、大変な職場なのかなと思っていましたが、みんな明るく元気な人ばかりで、スタッフの雰囲気の良いさに驚きました。入ってみないとわからないことはあると思いました」とのこと。福祉の仕事の魅力は、「利用者や家族の笑顔が見られること。さらに、塗装業では1人で黙々と仕事をしていましたが、今の仕事は仲間と一緒にできることも魅力です。チームで動くことは強みですし、わからないことがあ



ても聞けばすぐに答えが返ってきます」とのこと。俵さんの今後の目標は、介護福祉士実務者研修を受講し、さらにスキルアップをしていくことです。

とりあえず最初の一步を踏み出そう

福祉の仕事に向いている人についてたずねると、「人が好きな人なら大丈夫です」という答えが返ってきました。福祉の仕事をしようかと悩んでいる方へのメッセージは、「私は、もっと早く福祉の仕事に就けばよかったと、今思っています。悩んでいる時間ももったいないので、とりあえず一步を踏み出しましょう。何か行動を起こさないと先には進めません。私自身、福祉の仕事に就いて分かったことが沢山ありました。実際に入ってみないとわからないので、ぜひ行動に移してください」と話してくれました。毎日、利用者とのコミュニケーションやスタッフとの会話で楽しく仕事をしているという俵さん。「福祉の仕事に限らず、頑張ることは当たり前で、何のために頑張るかが重要だと思います。自分のため、家族のため、利用者のため、利用者の家族のため、自分を含む周りの人たちの笑顔が見られる時が、私が一番輝いている時です」と話すきりり人です。

